

8

やがて、「労働争議」という大きな事件が起きます。小市は、この事件の責任をとるべきだと考え、会社を辞めました。



河合楽器研究所

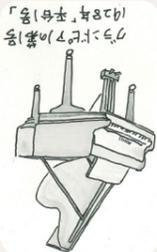


昭和2年(1927年)、小市を慕って集まった技術者とともに、今の浜松市中央区寺島町に、「河合楽器研究所」をつくりました。

9

12

こうして、河合小市の河合楽器は、日本楽器とともに競い合っている。高い楽器を生み出していました。



13

ここで、河合小市が活躍した場所を見てください。

・JR浜松駅より東にある寺島町に、小市がつくった河合楽器研究所、そして今は河合楽器製作所の本社があります。



7

9

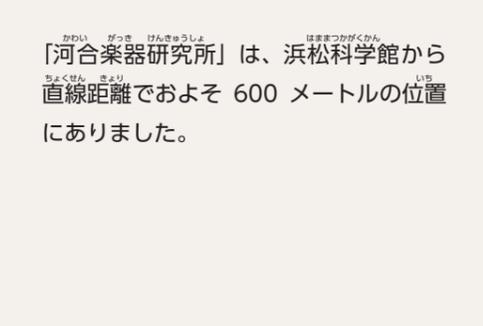
そこで、小市のアクションを使ったピアノが完成しました。

アクションというピアノの心臓部の部品を輸入する必要がなくなり、日本のピアノづくりに、とても大きな前進となりました。

大正5年(1916年)山葉寅楠が、亡くなりました。

小市は、寅楠が社長をつとめていた「日本楽器製造株式会社」の技術部門の責任者となりました。

「河合楽器研究所」は、浜松科学館から直線距離でおよそ600メートルの位置にありました。



10

3

11

2

翌年には、アクションの製造を開始しました。

昭和4年(1929年)、「河合楽器製作所」と名前を改めました。



14

これらは、浜松科学館から、直線距離で、およそ2km以内にあります。

浜松は、共に活躍した河合小市そして山葉寅楠を、身近に感じることができる「楽器のまち、音楽のまち」なのです。

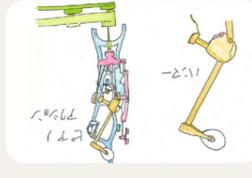
・寺島町から西に、小市が生まれ育った菅原町があります。(浜松科学館は、寺島町の隣、北寺島町にあります。)

・菅原町北側に、山葉風琴製造所がありました。

小市は、寝る間も惜しんで休まず製作に取り組み、ついに自分の手でアクションを作り上げます。

「アクションの開発」を託されました。

鍵盤を押すとハンマーが弦を叩くという



山葉風琴製造所

寅楠のところで小市が働くようになったのは、11才のときです。

小市は、住み込みで一生涯懸命に働きました。



11

2

そして、偶然だったのですが、その近くで、山葉寅楠がオルガンづくりを始めました。

小市の評判を聞いた寅楠は、自分のところでも働くことを勧めました。



山葉寅楠(1851~1916年) 日本楽器製造株式会社 (今のヤマハ株式会社)の創設者

14

浜松科学館で会いましょう!



常設展 2階展示「河合小市」

主な参考資料

- ・「河合小市からEXへ：創立70周年記念」[河合小市からEXへ]編集委員会編/河合楽器製作所
- ・「美しき旋律のために」鶴見正夫/PHP研究所

浜松科学館 Hamamatsu Science Museum

作成：2025年 監修：株式会社河合楽器製作所

5

工場を視察し、機械や部品を購入するの目的でしたが、小市は寅楠の出発前にアメリカに行くことになりました。

に続いて、ピアノづくりを始めのために明治32年(1899年)寅楠はオルガン



小市18才のときには、「研究や発明のことは、小市に頼め」と寅楠が言うほどでした。

小市の名は、「発明小市※」として、たちまち知られるようになります。

※発明小市

小市はピアノアクションやピアノ響板、ハーモニカ・リードの取付装置など18件の特許、10件の実用新案を取得した。

4

1

河合小市は、明治19年(1886年)に車大工の家に生まれました。

小市は、模型の馬車を見事につくるほど手先が器用でした。

小市は、今の浜松市中央区菅原町に住んでいました。



浜松の偉人シリーズ ミニ折本

この手で世界一のピアノをつくりたい



1886~1955 河合小市

浜松で、楽器産業が盛んになったのは、山葉寅楠の活躍だけではなく、河合小市の活躍もあってこそでした。河合小市を紹介いたします。

作成：浜松科学館 監修：株式会社河合楽器製作所